

平成30年度進捗評価シート

添田町歴史的風致維持向上計画(平成26年6月23日認定)

(最終変更 平成31年3月13日)

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)

- 1 法定協議会及び支援連携体制について 1

②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)

.

③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)

- 1 英彦山神宮参道保存整備事業・英彦山神宮参道修景整備事業 2
- 2 中島家住宅保存修理事業 3
- 3 案内板等整備事業 4
- 4 普及啓発イベント事業 5
- 5 まちづくり団体育成支援事業 6
- 6 児童・生徒に対する意識向上推進事業 7

④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)

- 1 文化財調査、保存活用計画の策定 8
- 2 文化財の修理事業、文化財の周辺環境の整備事業 9
- 3 文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組など 10
- 4 文化財の防犯に関する取り組み 11

⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)

- 1 町指定天然記念物「吉木のヤマザクラ」で復興のシンボルを！ など 12

⑥その他(効果等)(様式1-6)

- 1 倒木した文化財の活用(クラウドファンディング) 13

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2) 14

評価軸①
組織体制

項目		評価対象年度	平成30年度
		現在の状況	
法定協議会及び支援連携体制について		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	本計画の推進、実施にあたっては、計画策定時同様にまちづくり課文化財係が事務局を担い、歴史まちづくり法第11条に基づく添田町歴史的風致維持向上計画推進協議会において計画推進や計画変更、円滑な事業の実施に向けた協議を行い、事業を推進することを基本とする。 計画の推進や事業の実施に際しては、国や福岡県の指導を仰ぎながら、庁内の関係各課との連絡調整を行いつつ、事業対象となる文化財の所有者や周辺住民等と協議の上、一体となって事業を推進する。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
法定協議会である「添田町歴史的風致維持向上計画推進協議会」を、平成30年10月25日に開催し、平成30年度実施事業の進捗報告及び平成31年度実施計画について委員からの意見を聴取した。 また、平成31年3月5日開催時には、平成30年度実施事業の進捗管理・評価及び平成31年度実施計画への意見聴取とともに、中間評価及び軽微な変更に対する意見も聴取した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
			
第10回 添田町歴史的風致維持向上計画推進協議会（H30.10.25開催）の様子			
開催回	開催日	主 な 議 題	
第10回	H30.10.25	○平成30年度実施事業の進捗報告 ○平成31年度実施計画について	
第11回	H31.3.5	○平成30年度実施事業の進捗管理・評価について ○歴史的風致維持向上計画の中間評価（H26-H30）について ○歴史的風致維持向上計画の軽微な変更について ○平成31年度実施計画について	

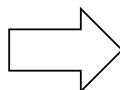
評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成30年度 現在の状況
英彦山神宮参道保存整備事業 英彦山神宮参道修景整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成29年度～令和元年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	【英彦山神宮参道保存整備事業】町道英彦山線である英彦山神宮参道について、石段や石垣、石塔等の工作物は、歴史的風致形成建造物に指定した上で保存整備を行う。また、これらの工作物の保存に影響を及ぼす参道沿いのツツジ等の低木や宿坊跡の山林等の除去を行うとともに、石垣等を眺められる小広場の整備を行う。 【英彦山神宮参道修景整備事業】町道英彦山線である英彦山神宮参道について、歴史的景観を阻害する水道パイプの地中化、歴史的景観を尊重した色彩・デザインを用いた消火設備に修景整備する。また、歴史的景観と調和したデザインの街灯へ順次取り換えを行う。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
平成29年度に測量設計を実施した町道英彦山線である英彦山神宮参道(延長約800m、高低差約180m)について英彦山神宮奉幣殿から延長102.8mの保存・修景整備を実施した。(平成31年1月18日竣工)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	地元地権者との協議や、参道工事を実施する工事車両が進入できない箇所が発覚等、設計した箇所以外の問題点により工期の遅れ及び設計額の増額等が発生し、当初設計より遅れている。		
状況を示す写真や資料等			



整備前



整備後

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成30年度 現在の状況
中島家住宅保存修理事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成27年度～令和元年度		
支援事業名	重要文化財(建造物・美術工芸品)修理、防災事業		
計画に記載している内容	重要文化財に指定されている主屋の保存修理を実施する。また、耐震診断を実施の上、必要に応じて耐震補強を実施する。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
主屋の煉瓦基礎の解体、礎石の取外し、据付など基礎工事や木部補修などを実施。醤油蔵の木部補修、荒壁付けなどの左官工事を実施。その他に、主屋の解体調査及び耐震診断を行い、現状変更案を作成し、耐震性能を確保した組立工事の実施設計書を作成した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	組立工事の実施設計に伴う耐震診断をしたところ、耐震性能不足が判明し、補強案の検討に所定の時間を要することとなった。そのため、当初予定していた工期から1年の延長を行う。		
状況を示す写真や資料等			



礎石据え付け状況

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成30年度 現在の状況
案内板等整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成27年度～令和5年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業及び街なみ環境整備事業の効果促進事業)		
計画に記載している内容	歴史的建造物等に設置されている案内板や誘導サインのうち、経年劣化等によりその機能を発揮できていない物を除去するとともに、未設置の建造物等も含めてデザイン方針に基づいた案内板等を設置する。併せて、交通結節点等に総合案内板を設置する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
策定済の添田町公共サインガイドラインに基づき、重点区域である英彦山区域内に設置:3カ所、重点区域を結ぶ交通結節点に設置:3カ所・撤去:7カ所の整備を行った。(平成31年3月5日竣工)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			



同一敷地内にあり、劣化した説明サイン(右)とガイドラインに基づき新たに設置した説明サイン(下は、新規設置サインの拡大写真)
【重要文化財 旧数山家住宅】



評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度 現在の状況
普及啓発イベント事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成26年度～令和5年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容 本町に点在する歴史文化遺産を活かしたまちづくりや歴史的風致維持向上計画の推進のため、勉強会や講演会等の普及啓発のためのイベントを開催する。

定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で

「歴史的風致報告会」として、現在の進捗状況の報告及び、歴史的風致に関連した講演会等を計4回開催した。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



第1回 歴史的風致報告会(H30.7.28開催)の様子

	日 時	報 告 会	参加者数
第1回	平成 30 年 7 月 28 日	歴史的風致維持向上計画の進捗報告 はじめての古文書～くずし字を読んでみよう～ 講師：西山紘二（添田町まちづくり課文化財係）	17 名
第2回	平成 30 年 9 月 8 日	歴史的風致維持向上計画の進捗報告 福岡県の近代和風建築 講師：松本将一郎氏（福岡県教育庁文化財保護課）	17 名
第3回	平成 30 年 12 月 8 日	歴史的風致維持向上計画の進捗報告 英彦山修験道美術の復原について 講師：知足美加子氏（九州大学芸術工学研究院准教授）	20 名
第4回	平成 31 年 3 月 28 日	歴史的風致維持向上計画の進捗報告 風致団体普及啓発勉強会 ・重文・中島家住宅推進協議会 ・英彦山門前町同好会	13 名

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成30年度 現在の状況
まちづくり団体育成支援事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成27年度～令和5年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業の効果促進事業)		
計画に記載している内容	本町に点在する歴史文化遺産を保存・活用するため、歴史文化遺産の保存・活用に係る文化財保護・まちづくり団体の活動経費の一部について、助成金を交付し支援する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
まちづくり団体設立支援事業(H27～H29)により設立された2団体からの申請(①会員募集及び情報発信に係るホームページの作成、②地域を学ぶ講座・街並保全のための花づくり講座)に対し、補助金を交付した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



①まちづくり団体育成支援事業を活用して作成されたホームページ(一部抜粋)



②まちづくり団体育成支援事業を活用して実施された事業(写真提供:重文・中島家住宅推進協議会)

左: 地域を学ぶ講座
(H30.9.29開催)

右: 花づくり講座
(H30.10.25開催)

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成30年度 現在の状況
児童・生徒に対する意識向上推進事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成27年度～令和5年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業の効果促進事業)		
計画に記載している内容	後世への伝承者である児童・生徒に対し、町内の小・中学校と協力しながら、添田町の歴史や歴史文化遺産に関する授業に取組むため、テキストを作成するとともに、授業への学芸員等の派遣、文化財の現地見学等の本町の歴史文化への意識向上に資する取組みを実施する。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
町内小学校による岩石城にまつわる歴史的風致を学ぶための現地見学に対し、学芸員を派遣し意識向上への取組を図った。 本事業により作成されたテキストは、社会科や総合学習の時間や、各小学校区ごとの郷土にまつわる歴史の授業等に活用されているが、各小学校に対し学芸員による出前授業など、更なる利活用をはかるためのチラシを配布・依頼した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



文化財の現地見学(平成30年7月17日)の様子

出前授業のご案内

学芸員による、児童向けの出前授業や現地説明、教職員向けの出前講座などを実施しています。ぜひ、お気軽にご相談ください！！

例えば、次のようなキーワードを学ぶ際に活用していませんか？

- 織文へ古代の暮らし…庄原遺跡（添田）、観音寺遺跡（中元寺）、など
- 江戸時代の暮らし…中島家住宅（添田）、旧数山家住宅（津野）
- 伝統文化・芸能・祭礼…神楽祭、津野神楽（津野）、彦山踊り（英彦山）、など
- 有名な武将との関係…岩石城と平清盛・豊後秀吉、英彦山と細川忠興、など
- 彦山の事前学習…岩石山の歴史・自然、英彦山の歴史・自然、など



【お問い合わせ先】
 添田町 まちづくり課 歴史文化財係
 電話：0947-82-5964（直通）
 FAX：0947-82-2869
 Mail：shisaku@town.soeda.fukuoka.jp



小学校に対する学芸員派遣案内チラシ

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		平成30年度
項目		現在の状況
文化財調査、保存活用計画の策定		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
計画に記載している内容	地域に存在する指定・未指定の文化財の実態を把握する取組みを進めるとともに、本計画における保存・活用の方策を講じる他、文化財として新たに指定すること等により、文化財の保護を図る。	
定性的・定量的評価（自由記述）※定量的評価は可能な範囲で		
史跡英彦山保存活用計画策定事業により平成30年度に「添田町史跡英彦山保存活用計画」を策定した。 英彦山区域の庭園調査を実施し、平成30年度は1庭園の図面を作成した。		
進捗状況	※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		

状況を示す写真や資料等



第5回 史跡英彦山保存活用計画策定委員会(11月)

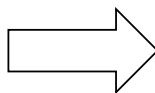
史跡英彦山保存活用計画

目次

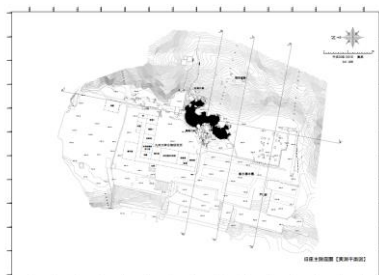
- 第1章 計画策定の目的
- 第2章 添田町及び英彦山の概要
- 第3章 史跡英彦山の価値と構成要素
- 第4章 保存活用の現状と課題
- 第5章 保存活用の基本方針
- 第6章 保存管理
- 第7章 活用
- 第8章 整備
- 第9章 調査研究
- 第10章 運営体制



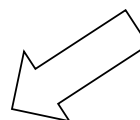
座主院庭園



庭園調査の様子



座主院庭園 平面図



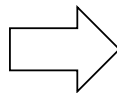
評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		平成30年度
項目		現在の状況
文化財の修理事業、文化財の周辺環境の整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	指定文化財の修理は、文化財保護法や福岡県、添田町の文化財保護条例に基づくとともに、文化庁や福岡県教育委員会、福岡県文化財保護審議会、添田町文化財専門委員会等の関係機関の指導を仰ぎつつ、それらと連携して実施する。 文化財の周辺環境は、文化財の魅力に強い影響力を持つことから、文化財の保存・活用を図る上では、文化財単体にのみ措置を講じるだけでなく、その周辺環境と一体的に措置を講じることにより、文化財の魅力を高めることが重要である。	
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で		
英彦山神宮参道保存整備事業・英彦山神宮参道修景整備事業（P3参照）、中島家住宅保存修理事業（P4参照） 長年の風雨にさらされ彩色が薄れていた国指定重要文化財「英彦山神社奉幣殿」の美装化事業を実施した。（平成30年12月竣工） また、経年劣化と白蟻で一部の柱が折損していた県指定民俗文化財「財蔵坊」について、柱の取り替えと併せ補強壁設置等の補修工事を実施した。（平成30年11月竣工）		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		



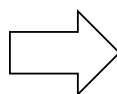
奉幣殿美装化事業 施工前



施工後



財蔵坊 補修工事前



工事後

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		平成30年度
項目		現在の状況
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組など		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	町内に点在する多数の文化財を広く情報発信し、より多くの人達に興味・関心を持ってもらうため、文化財の説明板や案内板、誘導サイン等の公共サインの設置を推進する。 町内外の人々を対象として実施する普及・啓発は、案内板等の設置やパンフレット等の作成・配布とともに、ガイド活動やイベントの開催等により、広く普及・啓発を図る。 本町の文化財を保存・活用していくためには、地域において文化財の保存・活用に取り組んでいる団体と連携することは必要不可欠である。これらの団体と連携して保存・活用を図るため、これらの活動団体に対する必要な助言・指導等を継続的に行っていく。	
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で		
案内板等整備事業(P5参照)、普及啓発イベント事業(P6参照)、まちづくり団体育成支援事業(P7参照)「重文・中島家住宅推進協議会」を中心とした地域住民による中島家住宅庭園の草刈りを実施した。(年3回)普及啓発の一環として、古文書講座を開催した。(年4回)		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		
   中島家住宅庭園の草刈(年3回:6月、10月、3月) 左:草刈機による草刈 中:細かな場所の手刈り 右:集草		
 古文書講座(年4回:H30年7月、9月、11月、H31年2月)		

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度 現在の状況
文化財の防犯に関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 美術工芸品等の有形文化財は、防犯環境設計の考え方に基づき、盗難にあわないよう防犯設備の設置を推奨するとともに所有者の意識改善等により、防犯性能の向上を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

昨今仏像などの盗難事件が多発しており、本町においても平成25年度に中元寺地区にある町指定文化財「十二神将像」のうち3体が盗難された(平成29年8月に無事返却)ことから、同年度1月、地元により十二神将像を安置する薬師堂に防犯設備を設置しており、また、町においても、平成26年度に英彦山山伏文化財室(スロープカー花駅)の防犯カメラ等設置した。

以後、設置した防犯設備の点検を実施するとともに、近年多発している文化財等への油状の液体散布被害を予防するため、日常的な見回り強化等を実施するとともに、所有者に対しても、注意喚起を継続して行っている。

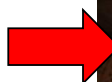
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



山伏文化財室に設置している防犯設備(平成26年度設

防犯カメラ



十二神将のうち、右端から3体が盗難被害から無事返却された像(右端から、迷企羅大将、伐折羅大将、宮毗羅大将)

県指定「木造薬師如来坐像及び台座」、町指定「十二神将12体」を安置する薬師堂の防犯設備(平成25年度設置)

効果・影響等に関する報道

状況を示す写真や資料等[illegible]

添田町-12

評価対象年度		平成30年度
項目		

倒木した文化財の活用(クラウドファンディング)

計画に記載 している内 容	町指定天然記念物「吉木のヤマザクラ」(平成3年8月7日指定)樹高16m、胸高周囲4.6m
---------------------	--

定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

平成29年7月の九州北部豪雨災害で被害を受け、その後倒木した町指定天然記念物「吉木のヤマザクラ」を使用した復興祈願モニュメントを制作するため、クラウドファンディングを実施(H30.5.14-6.29)。

クラウドファンディングには、総勢141名からの寄付が寄せられ、目標金額を上回る138%を達成することができた。

本町として、クラウドファンディングは初の取組みであったが、九州北部豪雨災害からの復興への想いと併せ、古より大切に受け継がれ育まれてきた文化財に対する想いの広がりによって、大幅に目標額を上回る寄付を募ることができ、文化財への機運の高まりへの確信が持てた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
----------------	--------------------------

☐ 計画の進捗に影響あり
☒ 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

●実施概要

実施期間	平成 30 年 5 月 14 日～同年 6 月 29 日(計 46 日間)
目標金額	1,700,000 円
寄附総額	2,346,000 円

[illegible][illegible][illegible][illegible]

クラウドファンディング寄附募集チラシ(A4両面)



完成した復興祈願モニュメント

クラウドファンディングプロジェクトページ(一部抜粋)



モニュメントお披露目式(H31.3.23開催)

法定協議会等におけるコメント

評価対象年度	平成30年度
・ 法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 添田町歴史的風致維持向上計画推進協議会	
会議等の開催日時: 平成31年3月5日(火)午後2時00分から午後4時10分まで	
(コメントの概要) 案内板等整備事業について、アジア圏を中心に海外からの観光客が増加している。多言語対応についても考えていく必要がある。 策定したガイドラインの全設置予定力所が何力所あり、現在何力所の設置が完了したのかが見えない。次回の資料作成において全体像と現在の進捗が見えるよう作成してもらいたい。 誘導サインに施設説明板のような説明を加える等、表記内容をもっと具体的にできないか。設置枚数を増やすことも必要であれば検討してはどうか。 町指定天然記念物「吉木のヤマザクラ」については、たくさんの寄付が集まり、指定の解除も受けず、文化的な景観の保全ができています。 児童・生徒に対する意識向上推進事業において、小学6年生から中学生を対象とした副読本の作製を検討してはどうか。この年代向けに作製することにより大人でも理解しやすいものになるため、作製したものをガイドブックとして販売すれば多くの方に添田町の歴史・文化を知っていただける機会になる。 添田本町地区のガイドマップ等も少ないので検討してはどうか。中島家住宅を中心に地域を盛り上げていく必要がある。 英彦山神宮参道保存修景整備事業の計画記載内容に「参道沿いのツツジ等の低木や宿坊跡の山林等の防除を行うとともに、石垣等を眺められる小広場の整備を行う」とあるが、石垣が見事であるためにその保全のため坊の中の樹木や薬草、竹等を切ってしまうのはいかかと思う。専門の先生等からアドバイスをもらい、残すものの整理をしてはどうか。中世から続いている珍しいものもあるため、大切にしていきたい。	
(今後の対応方針) 多言語対応については、表記的に難解な文言(修験道等)等もあり、また、案内板に複数言語を表記することにより、全体の掲載量が増えるため、案内板のサイズを大きくする、もしくは表示する文字を小さくする等の対応が必要であるため、表記への対応は困難である。 今後については、アプリやQRコード等の導入も検討したいと考えており、現在全国的に取組みの推進が検討されているARやVRのような最新技術についても導入の検討を行い、Wi-Fi等と併せて整備することで、多言語対応やより詳細な情報を多くの方に伝えるシステム化の整備も検討したい。 平成27年度に作製した小学3・4年生向けのテキストは子どものみならず好評を得ており、販売等も実施している。副読本やガイドマップの作製については今後検討したい。 参道のツツジは昭和に入ってから植栽されたものなので低く刈り込んで景観を保全していくこととしている。文中に山林とあるが、具体的には石垣等にある支障木や枯死木を除却して景観に配慮していくということであり、むやみに伐採等をするものではない。影響を及ぼしているものの整理を行い景観の保全に努めていく。	